

神様への祈りや誓いの儀式が終わって、その大切な祝詞を入れた器「口」に「成」を加えて、封をとじること

ある。私など足下にも及ばない。と言わしめた程の人物なので。

大切である。1つ目は、「畏づる」。天を畏れ、自然を畏れ、神への畏敬の念を忘れてはい

更にその下に「心」が加えられた。「感」は、人の祈りに対して神の心が動き応えること

更に、益軒が医師として、又遭した言葉を紹介し、また「薬を売るものは「両眼」

つまり、薬をつくった人はその薬についてよく知っている

大阪地区近郊敬和会 教会に於いて合同で開催



お互いの顔を会わせて、お陰話を披露しました。

教会行事

- 七月 一日(木) 月並祭 午後七時
御本宮月並祭 午前十一時半
御本宮遙拝式 午前九時

させていただいた後、一の間及び二の間へ場所を移して合同敬和会を開始



発行所 寶生教大阪本部 大阪府西淀川区北堀江3丁目10番

7月号

自家成立の 根源は和にあり 秩序の根源は 神祖崇敬より

本部の夏祭り

立教記念大祭

七月二十五日(日)午前十時半執行 宵宮、恒例の納涼会は、本年は開催いたしません。

教話 聖なるものへの畏敬の念

祭 並 月 (6月1日)

早くも一年の折り返しの六月、水無月です。梅雨の季節なのに「水無月」と呼ばれますが、以前も申し上げた様に、「なは」の「で」

お一人で現場に行かれるそのうなのですが、この日の寶生教への商談には、奥様が「二緒に行ってもいい？」

教会の門をくぐられ、手水をされると、ふと空気が変わつたのを感じられたのだ



教主・大阪本部長様

大変わかりませんが、先日記事は「聖」なるものへの畏敬」という記事がありました

教話 偉大な先人の言葉に学べ

祭 並 月 (5月15日)

皆様が、漢文学者の白川静氏をご存知でしょうか。福井県出身、立命館大学名誉教授で、生涯を通し漢字の成り立ちや意味について

連載されるそうで、その第一回が先日五月一日の新聞に掲載されておりました。

「感」の中にある「口」という字。これは顔にある「口」という意味では無く、神様への祈りの言葉を入れる器「口(サイ)」という意味があります。

そして、世界にはあらゆる宗教が在り、それぞれの民族の歴史とともに存在し続けております。

「聖なるもの」とは、正に寶生山八津御嶽大神、又、各家の御祖先でございます。

「初心忘る、べからず」という言葉のように、初めに心に決めた志を最後まで貫き通すこと、そして最初に感じた感激を忘れずに持ち続けることが肝要だと存じます。